

10 図書・学術情報に関する事項

図書館は、各学部、各研究科及び研究所等における教育・研究に必要な学術情報を広くかつ系統的に収集・整理および管理を行い、これらを学生及び教職員の利用に供し、本学の教育・研究活動を支援する中心的機関としての役割を担っている。

学術資料収集においては、各種データベースを始めとする電子媒体普及の現状を把握し、従来の紙媒体に限らない多様な情報収集活動を行う。教育活動支援では、学術資料収集とあわせ、学術資料を学生が有効に活用できるように、授業とリンクした利用者教育の展開を行う。研究活動支援では、場所と時間に関係なく利用可能な電子媒体の収集を主眼とし、紙媒体とのバランスの良い収集を目指す。

また、学内外に発信していく学術研究機関であることも認識し、展覧開催による一般市民への資料公開や、学位論文を始めとした本学の研究成果物および大宮図書館で所蔵する古典籍・貴重書のデジタル化を行い、広く学内外への公開を推進する。

1 図書・学術情報を活用した教育支援

●蔵書構成の充実

本学が擁する学部・学科・研究科の専門分野を視野に入れた蔵書構成の充実を図り、学生の学習用図書及び基本図書を広く収集する。また、各講義の学修を補助する参考文献の受入・排架を行う。

●利用者教育の充実

蔵書検索方法を中心とした新入生対象図書館利用説明会の実施や、教員の要望に応じた資料収集講習会の実施、各種データベースの講習会、及び情報メディアセンターと連携した講習会を実施する。

●利用者への情報提供

図書館利用ガイド『LIBRARY GUIDE』（発行：年1回）図書館報『来・ぶらり』（発行：年2回）を紙媒体で発行するとともに、HPによる情報提供発信を強化し、より多くの利用者への情報提供を図る。

●所蔵コレクションの公開

大宮学舎本館展覧室における展覧を実施するとともに、深草図書館、瀬田図書館においても、所蔵コレクションの定期的な展覧を開催する。

2 図書・学術情報を活用した研究支援

●電子ジャーナルや学術データベースの収集

各教員の研究活動を支援するため、従来の図書資料と、電子ジャーナル、学術データベースをバランス良く導入し、検索方法も充実させる。また、より有益に学術情報を提供できるよう、電子媒体資料の導入に関する方向性についても検討する。

●図書館所蔵資料のデジタル化・情報発信

古典籍デジタルアーカイブ研究センターが行ってきた大宮図書館所蔵資料（古典籍・貴重書等）のデジタル化に関する研究成果を引き継ぐとともに、従来図書館が独自に行ってきた電子図書館事業と整理統合した上で、これらを積極的に推進するための体制を構築する。

●学術リポジトリの運用

本学の研究成果を紙媒体から電子媒体に変換し、学内において保存・管理を行い、インターネット上で無料公開を行う。初年度はシステム安定稼働に注力しながら学位論文データの公開を行う。併せて、著作権処理を進めコンテンツの多様化と充実を図る。

3 図書・学術情報利用環境の整備

●図書館システムリプレイス

全図書館（社会科学研究所も含む）において、老朽化の著しい機器のリプレイスを行い、インターネットコーナーの充実をはじめとした利用環境の整備を行う。

●閲覧席什器リプレイス

深草図書館において、老朽化の著しい閲覧室の机・椅子等の什器リプレイス（4年計画の4年目）を行い、学習環境の改善を行う。

●日曜開館等の実施

利用実態と利用者ニーズならびに利用効果を踏まえ、2008年度に引き続き、日曜開館等を実施する。

●適切な資料所蔵スペースの確保検討

深草図書館において、狭隘化した資料所蔵スペースを、利用者の利便性に配慮した形で確保するために、具体的な対応策を検討する。

4 図書・学術資料の公開と施設の開放

●一般市民を対象とした図書館資料の公開

大学関係者のみならず多くの一般市民を対象として、大宮学舎本館展覧室において本学所蔵の貴重書を中心とした展覧を春と秋に開催する。なお、秋の展覧は本学370周年を記念する回顧展として実施し、深草、瀬田においても同時にパネル展を開催する。

●滋賀県下の高校生等への図書館開放

滋賀県立工業高等学校との高大連携に伴う図書館利用の要請等を踏まえ、大学図書館の地域開放政策の一環として、従来のREC会員等に加え、期間を定めて滋賀県下高校生に対して、瀬田図書館を開放する。

●図書館資料のインターネット上での公開

先に挙げた「古典籍のデジタルアーカイブ化」ならびに「学術リポジトリの構築」において、各コンテンツをインターネット上で公開し、研究成果や学術的価値の高い資料の社会的還元を行う。